

## 乳児部会

### 【提言項目】

被虐待児の家族再統合に向けた施設における支援の強化

### 【現状と課題】

乳児部会が実施した「被虐待児受け入れ実態調査」結果では、少なくみても入所児童の4割が被虐待児であった。虐待の分類上、最も多かったのが「ネグレクト」、次が「身体的虐待」であった。また、「DVの目撃」が1/4近くあったことも特徴的である。

こうした被虐待児が表出している問題行動としては、「情緒面の問題」と「言語発達の遅れ」が目立ち、いずれも入所児全体の2～3倍の発生率であった。

また、保護者についてみると、面会・外出・外泊が適切に行われているのは半分くらいに留まっていた。そして、施設の家庭支援専門相談員や心理職が、被虐待ケースに対する支援にかなりのエネルギーを注ぎ込んでいる実態も明らかになった。

更に、日常の処遇場面でも、従来に比べ様々な配慮を余儀なくされることが多くなっている。

以上のことから、児童へのきめ細やかなケアと保護者に対する継続的支援の必要性は、ますます高まってきている。

### 【提言内容】

家族再統合へ向けた支援を効果的に進めるためには、処遇職員及び家庭支援関係スタッフの体制強化が必要である。このため、被虐待児受け入れ加算等の充実が望まれる。